



<冬物野菜大豊作！ さあ！ ようけ買うてや！ なんぼ買うてもええんか？>



## Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます  
URL <http://www.naranature.com>



会長・年頭挨拶	1	里山は心の故郷	8
ならやまプロジェクト	2	字遊字感「歴史を2倍楽しむ方法」	9
Monthly Repo ならやま	3	西池・水生生物調査（総括）	10
里山の今（景観・パト）	4	新ならやま投句箱	11
自然観察会（晩秋の奈良公園）・レポ	5	進路ガイダンス・レポ	12
月例研修会（奥春日山原始林）・レポ	6	幹事会報告・編集後記	13
芋煮会・レポ	7		



# 新年 明けまして おめでとうございます



千載 輝重

## <ワールドカップ>

ワールドカップでの侍ブルーの活躍は、暗い世相を明るくしてくれ、特にサポーターの試合後にごみを集めて持ち帰るマナーが大きく評価されたことは新しい年に向かって勇気をもらったような気がしました。私たちの活動の一部が評価されたようにも思えたのです。

一方で、ウクライナ問題でロシアが排除され、人権問題で表現が制限されるなど、分断された世界があることも改めて感じさせられました。価値観の違う人たちとの話し合いはどうすればできるのでしょうか。

## <昨年を振り返って>

昨年もコロナ禍は第6波～第8波と私たちを脅かしました。けれどもウィズコロナが定着し、新春講演会は見送らざるを得ませんでした。20周年記念誌の発行をはじめ、図録の刊行、予定されたイベント、ならやまプロジェクト、月例研修会、自然観察会ともほぼ計画通り活動できました。年初に完成した機関車広場、モミジ広場に植樹されたヤマモミジとカツラも、幼いながらも美しい彩を見せてくれました。

コロナ禍と酷暑に翻弄されつつも、つつがなくみんなで活動できたことに感謝します。

ただ、事故による受傷が相次ぎ、安全な活動という面では不安が残ることになりました。小さな事故の先には大きな事故が潜んでいることを思い起こし、高齢者集団であることも十分自覚して安全な活動に心がけなければと思います。

## <思うこと>

光陰矢の如し。「チコちゃんに叱られる」で知りました。過ぎ去る年月の速さは年齢とともに加速され、19歳を過ぎると現実より速く感じ始めるそうです。私たちの「矢」の速度は……。なぜそうなるのか？ チコちゃん曰く、「ときめ

き」が少なくなるから。確かにイベントに来る子供たちは何にも興味深々で、目を輝かしながら「なんで？」という質問に思わずたじろぐことがあります。「ときめき」の源は興味であり、その源は「なぜ？」ではないでしょうか。

私たちには活動を通じてさまざまな「ときめき」の機会があります。でも、単に楽しいだけで「なぜ？」がないとその機会を逃してしまう、または、せっかくの「ときめき」も半減してしまっているかもしれません。

ならやまの活動は自分の周りしか見ていませんか？ 5つのグループが何をしていて、そこに「なぜ？」が無数にあるのを知っていますか？ それらの「なぜ？」の向こうにならやまプロジェクトの大きな「なぜ？」があるかもしれません。1月14日の「新春講演会」、1月24日の「ならやまプロジェクト報告会」が新たな気づきを得て「なぜ？」と考える機会になればと思っています。

健康寿命(2019年調査)は男性73歳、女性75歳だそうです。当会ではほぼ平均年齢にあたります。私たちが世間に比べて十分若いのはいろいろな活動で「ときめき」を感じているからでしょう。これからももっともっと「ときめき」、「若さ」を楽しみたいものです。

ウサギの寿命は5～6年。ペットとして保護されだして10年以上生きるウサギもいるらしい。寿命だけ長くとも「ときめく」ことのない生き方は遠慮したい。精一杯ときめいてピョンピョン跳ねるウサギにエールを！



# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
あなたも私も・力合わせて

冬晴れの日、いただいた芋煮の美味しかったこと。豚汁とはまた違った奥行きのある味が何とも言えない。いつも温かい心のこもったお汁を作っていたでいる賄い担当の皆さんに感謝。新年にいただくつきたてのお餅と七草粥が楽しみだ。

門松が飾られるといよいよ新しい年を迎えるという気持ちになる。会員希望者には干支(ウサギ)の竹細工とミニ門松の作り方指導と材料が提供され、それぞれが家の玄関を飾るだろう。コロナ禍と酷暑に翻弄された1年だったが、何とかならやまプロジェクトの目的に沿った活動ができたことに感謝しよう。

新年初出の日に、恒例となった10年継続会員顕彰が実施される。今回の対象者は10名。会員の平均在籍年数は8.5年であり、10年は中堅。これからも活動の中心になっていただく方ばかりである。創立以来21年在籍される会員も4名おられる。明るく、楽しく、無理をせず、生涯現役を目指したい。

## 1月の活動特記事項

- 1月5日(木): 初出、餅つき、七草粥、10年継続会員記念植樹、ならやま観察会
- 1月12日(木): 協働活動(アダプトプログラム)
- 1月14日(土): 新春講演会(奈良市中部公民館)
- 1月24日(火): ならやまプロジェクト報告会(奈良市中部公民館)

## 1月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備、植樹場所整備、薪割り、シイタケ棺木準備 ユート: アカマツの森でのマツの間伐整備
エコファーム	エンドウ誘引、野菜収穫 水田畔補修、堆肥場整備、畑の整備(チップ入れ)、鹿ネット補修
景観	整備: 実りの森竹林整備、ミツバチ巣箱整備 ビオ: 西池補修・木道整備 花: 紫陽花園草引き、寒肥はり
パトロール	1~3コースパトロール、観察路整備、保護植物周辺整備 ならやま観察会
果樹	鹿よけネット補修、果樹剪定 コンポスト作り、ブルーベリーの移植、剪定残渣のチップ処理

活動日: 毎週木曜日 9:00~15:00

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



**Monthly Repo. ならやま**

富井 忠雄

11月24日 晴れ 70名

のらの会が盛況に開催されたとの報告、12月6日の例会の案内の後、来年の年男で最高齢の会員(阿部、木村、川勝)に鈴木さん手作りの干支竹細工が贈呈された。里山GはNo.18区画で椎茸栂木用の伐採、薪割り、ミニ門松と干支工作の準備など。ユートピアクラブは赤松林の松の間伐、笹の除去。景観Gは佐保自然の森の竹林整備と観察路の視察。花班は山野草園の草引き。パトロールGは3コースのパトロール、観察路の草刈り、会員向け紅葉の観察会実施。果樹Gは柿とグミの剪定、ブルーベリー畑の高畝作りなど。



12月1日 晴れ 77名

月例研修会、新春講演会の案内があった。里山GはNo.18区画でのチップ処理と薪割り、ミニ門松と干支工作の準備。エコGは牛蒡掘り、各種野菜の収穫、など。景観Gは佐保自然の森の竹林整備。花班は山野草園の草引きとアヤメの葉の刈取りなど。ビオ班は西池北側湿地の泥上げ、水路作り。パトロールGは1コースのパトロール、ササユリ周辺草刈り、樹木銘板の取付け。果樹Gはゆずの収穫、コンポストの撤去、梅林の剪定など。

12月8日 晴れ 64名 近大生4名+1名

6日例会の報告、1月10日三輪山登拝の案内があった。12時よりエコGが中心となって芋煮会を実施。里山GはNo.18区画でのチッ

パー作業と間伐、薪割り、ミニ門松と干支工作部品作り。エコGは芋煮会対応のほか、鹿対策ネット張り、エンドウの植え付け、冬野菜の収穫と販売。景観Gは佐保自然の森竹林整備。花班はハナショウガの刈取り整備など。ビオ班は近大生が中心となってタナゴ池の池ざらい、西池水生生物調査。パトロールGはトイレ囲い柵用の竹の手配、1月の佐保川小学校校庭学習の打合せなど。果樹Gは鹿除けネットの支柱造り、丸太の処理など。



12月15日 晴れ 68名

+シニア自然大学校生3名

シニア自然大学校から3名の参加、進路ガイダンスの成果か? 1月10日の三輪山登拝、14日の新春講演会の案内があった。里山GはNo.18区画にてチップ処理作業、薪割り、正月用門松準備。ユートピアクラブは赤松の間伐と松山平の状況確認。エコGは牛蒡掘り、各種野菜の収穫、畑の整備。景観Gは佐保自然の森竹林整備など。花班は銘板作りとイチハツ周辺の草引きなど。ビオ班は里地、ビオエリアの水路の泥上・落ち葉除去。パトロールGは3コースのパトロール、トイレの目隠し柵改修と植栽など。果樹Gは実りの森の鹿用ネット補修、記念樹の植え替え、実習生に対する作業内容の説明など。



景観グループ

里山の今

パトロールグループ

佐保自然の森の整備

永井 幸次

佐保自然の森の整備区間は広いのだが、景観整備の人数は以前より少なかったので草刈り作業は大変だった。機械化され平坦なところは容易なのだが、コーナーや斜面は草刈り機での作業で苦労した。そのかいもあり、広い佐保自然の森もきれいになった。



草刈班の仕事は3月の草刈りに始まるが、4月にはタケノコ取りで忙しい。今年はタケノコの豊作でなおさらだった。その間に草は生え放題、10月初めまで毎回草刈りに追われた。タケノコ取りの後の竹林を管理しないと、竹も生え放題。佐保自然の森の竹林整備をするために、



今回は6区画に分け、区画ごとに枯れた竹、ゆがんだ竹、密集している竹を里山グループの協力で伐採した。佐保自然の森の竹は太く硬いので、一定の長さに切り所定の場所に整理するのは大変だが、協働作業できれいに片付いた。協働作業は普段竹林の中に入ったことのない人に竹林の整備の大変さがわかってもらえる良い機会に。竹林と草の管理は、どちらも放っておくと生え放題になるので、今後も管理の必要性を実感した。

気ままな活動

塩本 勝也

メンテナンス班はパトロールグループの傘下にあります。メンバーは辻本、八木さんと私の3人です。担当は「要保全整備箇所並びに観察路等のメンテナンス」となっています。要保全整備箇所の具体的な内容は決められていないようです。会の要請や私の気づいた箇所のメンテをしています。観察路はパトGのみなさんが熱心に取り組まれています。

今年はBCのメイン階段が6年目で更新され、3代目の階段となりました。新旧の枕木を組合せ、両側に手摺を設けた最新バージョンです。パトG、山Gをはじめ沢山の人の手を借り完成しました。階段の刻みに2cm前後の段差があるのでけつまずく人が出ないかと心配しました。3人目のつまずきで即手直しをしました。

ならやま活動のインフラ的なものの作り出しから維持管理まで携わっていることになります。階段、小橋、テント、看板、側溝蓋等々でみなさんと同じ思いで対応しています。出来る範囲は一人仕事をベースにしています。気楽でゆっくり楽しめるからです。しかし、みなさんの力を借りるといろいろなアイデアが出てきて楽しい。一つの方向にまとめるのが大変ですが施工スピードは断然早くなります。理想的なものを作ることに挑戦しながら、限られた予算の中で、また古都保存法に則って、このならやまに相応しいものを作り出すことが重要です。さらに言えば、作り出しからメンテナンスフリーを考慮することも肝要です。

ならやまも各グループ体制が明確になり、円滑、積極的に活動していることは素晴らしい。しかしお互いの助け合いが少なくなってきたのではないのでしょうか。お互い高齢者、ちょっとした手助けを心がけてはと思います。

自然観察会  
晩秋の奈良公園紅葉狩り

富江 文雄

11月22日(火)近鉄奈良駅前の行基菩薩像前に11人が集合。濃霧による電車遅延の影響もあり9:15に出発。講師は千載さんで、歴史的なお話を交えての観察会となった。



北円堂付近から観察会を開始。興福寺は藤原不比等が氏寺として建立した寺院で、外京の高台から平城宮を見下ろす位置にあり、往時の勢力が偲ばれる。飛鳥寺様式とされる三金堂を擁していたが、現在は2019年に再建された中金堂と室町時代再建の東金堂と二つの金堂のみである。再建予定のない西金堂跡には修二会で奉納した猿楽座が能の源であることを示す能楽金春発祥の地という石碑が建っている。近くの大きな松に数個の‘マツグミ’が見える。寄生植物であるヤドリギの一種で宿主から栄養分を得ており松には負担が大きい。クスノキの枝に着いている‘ノキシノブ’は着生植物で宿主の負担にはならない。

京都とを結ぶ奈良街道沿いに南都八景の一つにもある‘雲井坂’の石碑がある。昔はかなりの坂道で荷車を押すには大変苦勞したようである。



その西に一里塚、東大寺西大門跡があり、周辺にはイチイガシ、エノキ、ケヤキなどの大木が茂っている。中でも、この時期に存在感を発揮しているのはイチョウの大木である。美しい黄

葉を大きく広げ、樹下には黄色の絨毯を一面に敷き詰めている。イロハモミジの赤やエノキの黄色とも融合してとても美しい。

戒壇院に52段の階段を登る。52段は菩薩から如来への修行の段階を表しており、私たちは菩薩(人間界)から如来(天界)に上ったことになる。裏手に回ると‘センダン’がまだ少し実を付けていた。2月末にかけて練行衆がお水取りの準備する別火坊を過ぎた右側に‘ヒイラギ’の古木の白い花が満開であった。古木になると葉は棘がなく丸くなる。私たちも少しは丸くなっているのかな。

大仏池の西側からの風景は奈良景観資産の一つであり、モミジの赤、イチョウの黄に加えて大仏殿が水面に映え、そこにカモが泳ぐ様は一幅の絵になる。



二月堂の方に登って行く途中の‘大湯屋’の南側の池のほとりに‘マルバヤナギ’の雌木と雄木が向かい合っている。柳の雌木の存在は大変珍しい。5月に綿毛に包まれた種(柳絮)が飛び、池面を白く覆った景色も見ものだそう。柳絮が街では嫌われるので雌木がないのだろう。

二月堂の下にほとんど数メートルしか残っていない大木があった。‘ナギ’である。幹から推定1000年近い古木であろう。春日大社の神木であり1000年の歴史があると言われている。

法華堂(三月堂)には国宝で素晴らしい宝冠をかぶる不空羂索観音立像がおられ、本堂(北側半分)は創建当時のままであり、ぜひ機会があれば拝観すべきとのこと。

春日園地へ降り、最高の美しさを見せる川沿いを散策、最後は吉城川沿いの紅葉スポットで赤、黄、緑のグラデーションをなす晩秋を堪能。秋晴れにも恵まれ気持ちのいい観察会であった。

月例研修会

奥春日山原始林遊歩・レポ

小島 武雄

気温 10 度の薄曇り、朝 9 時 20 分の近鉄奈良駅「行基像前」広場への階段を上がると、既に皆さん集まっておられました。予想を超えて 20 名の参加です。市内循環バス外回りで向かいます。車内には同じ歳格好のグループと、外国人観光客がどんどん乗って来て満員に、外国人はノーマスク、「大丈夫でしょうかね?」。あの頭塔の近く「破石町(わりいし)」バス停で下車。ここから春日奥山遊歩道の登り口へ、マスクは外して気持ちよく静かな住宅街を歩いて行きます。12 月 11 日の奈良マラソン交通規制の看板を横目に、すぐ近くの茂みには若鹿の姿、おいしそうな蕎麦屋の前を通り過ぎ、いよいよ滝坂の道(旧柳生街道)に、鬱蒼とした林の中へ入ると一気に空気が冷たく変わります。苔むした古い石畳の上、側には小川のせせらぎだけ、静かです。赤茶色の落ち葉絨毯を踏みしめて、滑らない様ゆっくり進みます。手にはしっかりとストックを握り締めて、薄暗い道を進みます。



最初に現れるのは道端の寝仏、古く朽ちてよく分かりません。次の夕日観音は崖の上、よく見れば地藏菩薩(室町時代)のお姿も。ここで、落ちた鹿の角と頭蓋骨を見つけるハプニング。

朝日観音(鎌倉時代)では、やっと陽の光が差し込み、神々しく見えました。赤や黄に次々と色を変える落ち葉と石畳が途切れて首切り地藏の三叉路に、ここまで約 1 時間歩きました。身体が暖かくなり上着を脱いで、上の池に向かいます。静かな水面には紅葉と青空が映り込み、とてもきれいで見入ってしまいました。シジュウカラや、ヤマゲラの挨拶を耳にして昼食休憩

に、歩いてお腹も空いていました。

昼食後、皆さんまだまだ元気です。もう少し足を伸ばす事になり、険しい上り下り道の地獄谷石窟仏まで歩きます。石窟にはまだ朱の残る線刻仏(平安時代の作、すごい!)を拝んで、下りの急坂に足を滑らさないように声掛けしながら歩きます。しばらくして、奥山ドライブウェイの開けた所に出てきました。舗装された道には灰色の朴木落ち葉がたくさん積み重なり、その上をサクサク、ザワザワと踏みしめて歩いて行きます。

帰りは春日奥山遊歩道へ、赤い落ち葉道は、とても長い緩い下りです。もう終わりの紅葉を眺め、時折差し込む光で、さっと輝き始める景色に「うわーきれい!!」と歓声をあげながらも、しっかり歩きます。そろそろ足腰に堪えて来た頃にやっと滝坂の道登り口に到着。山坂道含め約 10 キロを皆で元気に歩きました、お疲れ様でした。落伍者無し。

案内人 福田、富井、小島



石畳の道から木橋へ

落ち葉を踏みしめて



首切り地藏前にて

## 芋煮会・レポ

岸谷 和代

芋煮といえば山形。里芋の収穫期に当たる秋から冬に食される郷土料理の一つです。

芋煮の発祥は古く1600年半ばと言われ、味付け、具材など地域により異なるとか。芋煮会は親睦を深める行事として、また収穫祭的な意味合いもあり東北地方を中心に野外で集団で鍋を囲むイベントとして、秋の風物詩となっています。山形名物「日本一の芋煮会」、直径6.5mの大鍋「鍋太郎」に工事現場で使う大型重機「バックホー」を使って3万食もの食材を投入して一気に調理するというダイナミックな芋煮会が有名です。3年ぶりに開催され大勢の人たちが楽しんだようです。芋煮会シーズンの到来です。



あ12月8日冬晴れの下、第14回芋煮会が開催されました。参加者は、会員69名、近大農学部学生4名にビジター1名の計74名。コロナ第8波が懸念される中、規模は小さくささやかな芋煮会になりましたが、中心となるエコメンバーの心意気は変わらず頑張りました。ならやま産の滋味豊かな野菜とともに、山の恵みの椎茸に牛肉2kgも加わり美味しさいっぱい、愛情いっぱいの芋煮になりました。

主役の里芋は、白くキメ細やかな肉質と丸々太った形状から名付けたJA愛媛の「伊予美人」。酷暑と少雨の過酷な生育環境にも関わらず丸々太った親芋、子芋、孫芋が顔を出し、皆安堵しました。

朝礼の終了後、エコ男性陣は前の週に掘り出し洗っておいた200余の里芋の皮むきにとりかかる。

円陣を組み持参の包丁で皮を慣れない手付きでクルクルと剥いていく。1時間足らずで芋は裸ん坊になりました。エコ女性陣も大忙し。芋煮の具材やほのぼの市の野菜たちの収穫に右に左に畑を巡る。手塩にかけ育てた沢山の野菜たちが収穫期を迎えています。真っ白な大根、色鮮やかな人参、青々とした菜物、丸々太ったかぶ…。今か今かと待っています。もうてんてこ舞いです。



テントの中では、賄い当番さんとエコ女性陣が手分けして野菜の下準備に取りかかる。こちらはベテラン揃い。色鮮やかな野菜たちが大山、小山で勢揃い。10:30調理開始。ならやまーの大鍋が湯煙上げる中、蒟蒻(こんにゃく)先頭に次々野菜たちがダイブする。2kgの牛肉が加わり、調味料がドボドボ入る。こちらも豪快です。見守る皆は??? でも大丈夫。味はバッチリ決まりました。さすが…。ならやま名物100人分の芋煮の出来上がりです。

ほのぼの市には、沢山野菜たちが並んでいます。12:00開始の合図と共に長蛇の列が動き始める。手に持つお椀の中には、伊予美人。「あー美味しい!」「ホントおいしいね」とそこそこで聞かれます。お代わりも続出。ならやまーの大鍋は早々にからっぽ! 心も体もホッカホカ。お世話頂いた皆さま美味しい芋煮をありがとうございました。そしてごちそうさまでした。

今は亡き初代会長川井秀夫氏の句「年暮るるやんやんやの芋煮会」。懐かしいならやまの光景です。今年1年沢山の恵みを与えてくれたならやまの畑たちに感謝する良き1日でした。



なら里山一年生

## 里山は心の故郷

森 和子

シニア自然大学校の人と自然の講座で一緒だった豊田さんから里山の楽しそうな作業の様子を聞いていました。次の講座で行きたいところはならやまと決め2021年12月の最終作業の日に見学参加、そのまま会員にさせていただきました。

四季を通じ里山の空気、木々の緑、土の匂いに会いたくて、ならやまの日は早起きして近鉄上本町駅より奈良行きに乗車しています。里山のおいしい空気とグループの皆さまと自然の中で和気あいあい、共に作業の身体的な疲労感はある、体内の細胞は里山の空気でアーシングされ心地よく充実の一日です。私の作業能力は猫の手に及ばず猫のしっぽ位と自覚しています。

有機栽培の果樹園で収穫された果樹のジャム作りも弟子入りさせて頂き砂糖のみで仕上げ素材の味を大切に、健康面を考慮し甘さ控えめに仕上げています。人工甘味料を使用していません。甘さが欲しい方は蜂蜜など好みで加えてください。種や皮の傷、痛み部分等を取り除きますが、小さい種などが残ることがあるかと思いますがご了承ください。美味しくなれと思いつつ作っています。時間、手間かけて仕上げ、瓶詰め作業を終えて満足の充実感です。立ち作業なので年相応腰痛のご褒美付きです。

かき混ぜるへらや煮沸した瓶を取り出すトング、瓶詰め用の大きめのスプーンはジャム作り用として別にしています。

市販されている商品は主原料は少なめで、入れなくてもよいものがいろいろ入っていて、色よし香りよし人工甘味料使用で販売されています。日本は食品添加物の種類、使用許可農薬種類が他国より多く使われているそうです。

有機栽培のならやまの野菜はとてもおいしく、蕪、大根、人参は皮にも栄養がありそのまま調理しています。

私は農家の次男の嫁でした。共稼ぎの20代の頃は休日ごとに、子育て中は本家のいとこ3人我が子2人で、我が家は毎日保育園状態でした。時には姉の子、年上の2人も来て大賑わいおもちゃの取り合いで仲裁に入ったり。順次幼稚園、学校へと成長して保育園も閉鎖しました。

お茶を摘み、季節野菜を作り市場に出していました。年間の自家用米は収穫時新米を10キロいただいていた。義父が仕上げた新茶は甘くてとても美味しく甘みがありました。お茶は自家用です。当時はまだ珍しいピーマンも市場に出していました。季節の新鮮な野菜をいつも頂き有難い事でした。義父は原木に穴を打ち抜き椎茸菌を埋め込み土手に横穴を掘り原木を立て並べて温度湿度管理し、肉厚な立派な椎茸を市場に出していました。義母は鶏を50羽飼っていて新鮮な卵を市価の半額で頂いていました。

土地開発で大きな道路が作られ築90年以上の家屋、蔵や、価値のあるものや歴史のあるものがなくなりました。本家は見晴らしの良い高台に新築して、庭には藤、霧島つつじ、紅梅の古木等々を移植してあります。

祖母が毎年梅干しをつけていた瓶を主人が我が家の宝物にしようともらってきて、いまもあります。大阪今昔館に同じものが展示されていて100年くらい前の作陶と思われる。

私の生家は川崎ですが戦災ですべてを焼失して横浜市へ転居、働き者の父母が雑木林を開墾して家を作り畑を作り、地産地消生活。ならやまの雑木林や畑などが幼い頃の望郷の思いをかんじさせてくれます。義父母も父母も働き者で温厚で見習うことばかりです。

いつの間にやら成人式を四回迎えました。目指すは五回目の成人式。ピンピンコロリが私の目標です。



## 我流・歴史を2倍 楽しむ方法

ならやまに秦の始皇帝の末裔?!

吉川 利文

当会の先輩会員川勝孝雄さんは地味なお方だ。時折、ベースキャンプの出入り口に当たるところの水路の木製蓋を金づちや鋸を使って黙々と修理している。私はその姿を拝見するたび「こんな会員が会を支えているのだろうか」と心中、敬意を深めていた。

それがある日急にとても近い人になった。今は同好会に改編された歴史文化クラブの、あるフィールドワークで、クラブ会長の故川井秀夫さん(当会の創設者)が、川勝さんを指して「この人は、古代史に出てくる秦河勝(はたのかわかつ)の末裔なんや」と大声で参加者に紹介したのだ。

「えっ、ほんまかいな」。ビックリはしたものの、その時は話し半分に聴いていた。しかし、秦河勝は古代史の有名人。とても気に入り、それから何日か後、当の川勝さんに「この間の川井さんの話、本当ですか」と単刀直入に尋ねてみた。「うん、ほんまや」。川勝さんの答えは、私にとって、むしろ拍子抜けするくらい率直で明快だった。私は歴史的事実の真偽はともかく、川勝さんの率直さに惚れてしまった。川勝さんにもっとお近づきになるため、大工仕事の面で“弟子入り”をした。

そんな折、終活を兼ね、積んどくしておいた本を整理している時、たまたまみつけた「謎の渡来人 秦氏」(文芸春秋社、水谷千秋著)という本に心を奪われた。

秦河勝が聖徳太子に信頼され、太子の側近として活躍した伝承はよく知られているが、私が仰天したのは、その秦河勝が中国古代の秦の始皇帝の末裔だとする説がある、という指摘だ。

著者水谷氏は古代史に関する著作が多い研究者だ。水谷氏によると、「日本書紀」には、「百濟から『弓月君(ゆつきのきみ)』が自分の国の民を120

の県から率いて帰化した」と書かれており、一方、時代が下って平安初期に書かれた「新撰姓氏録(しんせんしょうじろく)」には「太秦公宿祢(うずまさのきみのすくね=注:秦河勝の尊称とされる)は、秦の始皇帝の3世孫孝武王之後(注:子孫)なり。男(注:息子)功満王、仲哀天皇8年に来朝す。男(その息子)融通王(一名弓月王)、応神天皇14年に来朝す。127 県の百姓を率いて帰化し…」とある。新撰姓氏録の「融通王(一名弓月王)」が日本書紀の「弓月君」と同一人物なら、秦の始皇帝の3代後の孝武王の息子の息子になる、という。

とすると、秦河勝は、秦の始皇帝の末裔であり、秦河勝の末裔である川勝さんは秦の始皇帝の末裔ということになる。この伝承について、ぶしつけな私はこれもズバリご本人に尋ねてみた。ご当人は、騒がず驚かず「そういう伝承があるネ」とさり。むしろ楽しむ風に、こんな逸話を聞かせてくれた。結婚する際、奥さんに自分の家系が“ただならない”ことをおごそかに語ったというのだ。

ただ、古事記には、秦造の祖(はたのみやつこのおや=注:秦氏の先祖)や漢直の祖(あやのあたいのおや=注:漢氏の先祖)が応神天皇朝に帰化してきたことが記されているが、彼らの名前もどこからやってきたかも記されていない。日本書紀の弓月君に関する記事にも、弓月君が秦氏の祖先であるとは一切書かれていない。「弓月君が秦氏の先祖なのか、秦造の祖が本当に弓月君なのか」。水谷氏はそこを問題視し、「何とも言えない」と慎重だ。

井上満郎京都産業大名誉教授の力作「秦河勝」では「(始皇帝末裔伝承は)後世の主張」という。真偽は深い歴史の闇の中である――。

資料が少ない古代史はいろんな推理ができて面白い。とくに秦始皇帝伝承は川勝さんの人柄も相まって本で読む2倍楽しめた。川勝さんも現在と古代を行き来しながら楽しんでおられる。まさに、「歴史とは、現在と過去との尽きることを知らぬ対話である」(E. H. カー『歴史とは何か』)と知った。

## ならやま西池の生物調査(総括)

ビオトープグループ 木村 裕

2010年に湿地を掘り下げて開設したならやま西池に生息する生物相(動物)の変動を取りまとめたので紹介します。

調査は2010年から2021年の12年間で、早春から晩春まで2~3週間ごとに水中の生き物の掬い取りを行い記録した。

なお、調査に当たっては、ならやまで活動されている多くの会員の方々にご協力をいただき厚く感謝します。

12年間の調査で確認された生き物は、下記表の通りで、捕獲数の多かった生き物のベストファイブは、ミナミヌマエビ(53%)、ミミズ類(10%)、コマツモムシ(10%)、ハイイロチビミズムシ(9%)、カワニナ(4%)で、残り14%がその他多くの生き物でした。

グループ名	種類数	捕獲数
ミミズ類	?	8609
貝類	4	3667
エビ類	5	46784
カエル類(成体+幼体)	2	772
カメ類	1	1
魚類	4	219
昆虫類・アメンボ類	4	232
昆虫類・ハエ目	3	3104
昆虫類・カワゲラ目	1	6
昆虫類・カメムシ目	9	18400
昆虫類・甲虫目	10	224
昆虫類・トンボ目	5	184
昆虫類・トビケラ目	1	2
昆虫類・カゲロウ目	2	348
所属不明(甲虫類?)	1	3

外部から持ち込まれたと思われるのがアカミミガメ(1頭)、ホウネンエビ(4頭)で、その後の繁殖は認められなかった。またメダカ(2019年初発見)も誰かが放流したものと推

察されるが、定着して増殖が進んでいる。

ミミズ類、カワニナ、ミナミヌマエビ、アメリカザリガニは池の開所前から湿地に生息していたものと推察されるが、開所3年後くらいから急増して池の主要的な存在種となっている。かつ冬季低温時でも常に捕獲されている。成虫が外部から飛来するマツモムシ、コマツモムシは、大量の幼虫が見られ、池内の繁殖が確認されている。

昆虫類ではカメムシ目で多くの種類が捕獲され、マツモムシ、コマツモムシ、エサキコミズムシ、ハイイロチビミズムシの4種の密度が高かった。なかでもコマツモムシは毎年多くの個体が捕獲され発生量は安定し、冬季氷が張った状態下でも水中で泳いでいるのが確認された。一方、ミズカマキリ、ヒメミズカマキリ、コオイムシは各1頭捕獲されたのみであった。

甲虫類はハイイロゲンゴウとヒメガムシが中心で、他の種は少なかった。

トンボ類幼虫(ヤゴ)はイトトンボ類が優占種で、池の開設当初から5年間は多くの個体が捕獲され、池の周辺でも成虫の飛翔が目だったが、2015年頃から減少している。クロスジゲンヤンマは2019年に1頭捕獲されたのみ。

ハエ目の幼虫は、ユスリカ類2種が毎年多くの個体が捕獲された。フサカ類は年次による差が大きく、2011年、2012年、2021年は非常に多かった。

生き物の発生動向は毎年ほぼ安定しているので、今後は3~5年間隔で実施したい。



詳細な解析データについては、ホームページをご覧ください。

ビオトープグループ：青木幸子、岡崎節子、木村 裕、桜木晴代、田中善英、戸田博子、羽尻 嵩、守口京子、山本妙子

# 新ならやま投句箱

## 俳句

わナンバー遠きふると初詣

阿部 和生

相生の松や米寿のおらが春

古川 祐司

里の初春<sup>はる</sup>笑顔奏でる杵の音

千載 輝重

明けの春岡志抱きて里に立つ

鈴木 末一

もう一杯晚酌すすむ活動日

平山 義正

除夜の鐘昭和のロマン遠くなり

羽尻 嵩

みたらいの涙を彩る紅葉かな

坂東 久平

書き始む十年日記の未来<sup>さき</sup>如何に

青木 幸子

鬼籍入る友数えつつ歳暮れる

八木 順一

膝掛けを二重に巻いて創作す

小島 武雄

里芋の皮むく老夫みな無口

藤原 勲

鹿が来るそれより厄介アライグマ

富江 文雄



新ならやま投句箱への投句ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。

## 短歌

氷瀑のつらら朝日で珠玉となり

中井 弘

春霞沖の小舟よいとおかし

谷川 雅邦

波のまにまにその身を隠し

戸田 博子

## 川柳

孫と寿司トロ・エビ・アワビ目が回転

トラ吉

沿道の笑顔で走れた42キロ

ねこじやら子

貰い物お裾分けして海老で鯛

ペコちゃん

寒い寒い相談何でもどんどこい

ヒノアケボノ

秋過ぎて冬来るらし焚き火恋し

のぶ

また一つ齡重ねて年を越す

ぜんちゃん

次号締め切り 二月中旬 投稿先 田中善英

## 進路ガイダンス・レポ

戸田 博子

12月8日(木)に、鶴見緑地・花博記念ホールでシニア自然大学の進路ガイダンスが、2年ぶりに開催されました。合計49団体が参加した為、会を紹介する展示スペースは90~180cmです。当会の伝えたい事はいっぱいあって狭い！ 残念です。



千載会長、小島武雄さん、青木幸子さんが、来年度の活動進路を決める人たちにならやまを紹介し、入会勧誘するために行ってきました。

幟をみて足を止める人は、熱心に説明を聞いてくださいましたが、大阪方面の方が多く、交通経路を聞くと、「奈良は遠いね」と言われます。隣のブースは武庫ネイチャーでしたが、やはり「遠いから」と敬遠されると話されていました。皆さん会員獲得に苦勞しておられると思いました。



人が少し途切れた頃、他の部門のブースをのぞいてみました。自然観察・昆虫・植物・工作など、細かい作業と時間をかけておられると感じました。そこで思ったことは、当会は活動が多岐にわたる、

会員も多い、自由な雰囲気、密かに自慢したかったです。此の事を知ってもらいたいと思い、「見学だけでも」とお勧めした方もありました。とにかく、説明・質問をされた方13名が名前を書いてくださいました。さあー、何名の方が仲間入りをしてくださるか期待しています。

## ならやまプロジェクト報告会ご案内

各グループからの報告があります。

2023年1月24日(火) 午後1時~

場所：奈良市中部公民館

- ・ほかのグループは何してるの？
  - ・みんな何を目的にならやまに来てるの？
  - ・そもそも「ならやまプロジェクト」って何？
- みんなが知りたいことがわかる！  
みんなが言いたいことが言える！
- 参加申し込み：千載まで

### ひとやすみ



ならやまで空を見上げると雲が浮かんでいて、鳥が飛んで。。。鳥から見たらどんな風に見えるのか？ 見てみませんか。

30m上空から見たベースキャンプです。



四季の丘の上空10mから西を見た風景です。畑の奥にベースキャンプが見えます。



**2022年12月度幹事会報告**

I. はじめに

佐保台小学校の5年生が稲作体験学習で収穫した「ならやまの黒米」が同小学校で給食として全校に提供された。大変好評でお代わりが相次いで完食。来年度も期待されているとのこと。

II. 会計・総務部より

- ・会員動向：149名 変わらず
- ・会計：各収支報告あり

III. 活動・行事関係

- ・12/29 干支作り ミニ門松作り
- ・1/5 初出式 餅つき・七草粥 雨天→6日
- ・1/14 新春講演会

(演題：里山整備のために考えていること  
～市民科学と里山～)

- ・1/24 ならやまプロジェクト報告会

\*ならやまプロジェクト関係

- ・12/8 芋煮会
- ・12/22 協働活動、アダプトプログラム
- ・BCトイレの柵取り外しキンモクセイ植樹
- ・1/5 10年継続会員記念植樹 藤の植樹

III. 企画、助成金事業案件

- ・林野庁関係 2月末まで竹林整備中
- ・その他各助成金事業は順調に進捗中。

IV 喫緊、提案事項

- ・来年度以降の活動計画の検討  
1/24 ならやまPJ報告会を開催。各グループの活動実態とその考え方を共有して、来年の事業計画につなげる。

V 広報関係

- ・ネイチャーなら1月号編集内容説明  
西池の水生生物調査12年間の総括を掲載。

VI 報告・連絡事項、その他

- ・月例研修会：12/6 春日奥山石仏巡りと紅葉
- ・自然教室：1/16 佐保川小学習支援 植物観察
- ・シニア自然大学校進路ガイダンス 12/8

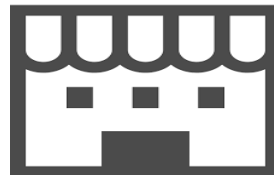
以上



その前に何があったのかはまったく記憶に残っていませんが、十数年前、住んでいるマンションから国道を挟んで向かい側にちょっと大きめの郊外型書店ができました。本好きだった私は大喜びで週1回以上通い詰めていました。いつの間にか行く頻度が下がり、他の客も少なくなったようで閉店となりました。

その後、建物を縮小して駐車場を広げ、コンビニに生まれ変わりました。我がマンションの隣にも同系列のコンビニがあり、競合しないかと人ごとながら心配するほどでした。隣のコンビニはその後、数百米移動しましたが、十年近くは共存したようです。しかし、夜間休業を経て、今年初めついに閉店となりました。

今度は葬儀場になるようで、今建物の改装工事が始まっています。その気になって見てみたら、元コンビニが小型の葬儀場になっているところ、結構あるようです。有為転変ですね。



\*\*\*\*\*

**2月ならやま活動&行事予告**

- \* ならやま活動(木) 2/2 協働活動日
- 2/18(土) 椎茸菌打ちイベント 予備日 25日
- \* 月例研修会
- 2/15(火) 法隆寺涅槃会・藤ノ木古墳

発行：奈良・人と自然の会  
 URL : <http://www.naranature.com>  
 編集代表 Mail: [editor@naranature.com](mailto:editor@naranature.com)  
 編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎千載・田中(善)・戸田・豊田

表紙写真：活動日の午前中に収穫した新鮮な野菜を会員に販売しています。